H25年度小笠原諸島の自然遺産に関する近況 (基礎資料集からの抜粋)

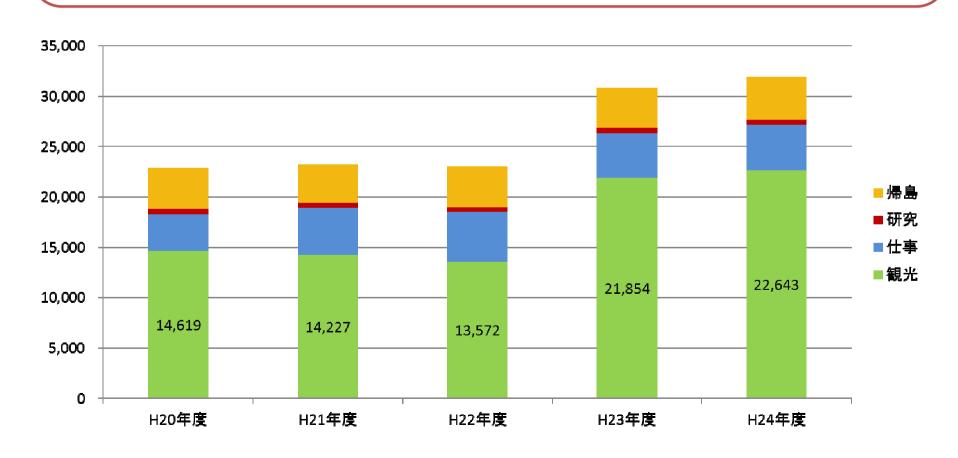
- ① 遺産登録後の変化 入島者、入林者、属島利用者の増加は落ち着きました。
- ②保全施策の進捗 2つの大きな危機的状況がありました。
 - 兄島のグリーンアノール
 - ・ 父島鳥山地域のニューギニアヤリガタリクウズムシ
- ③地域的な課題の取組

平成25年度も、村民意見交換会を実施し、新たな外来種の 拡散、愛玩動物対策、環境教育等について議論しました。

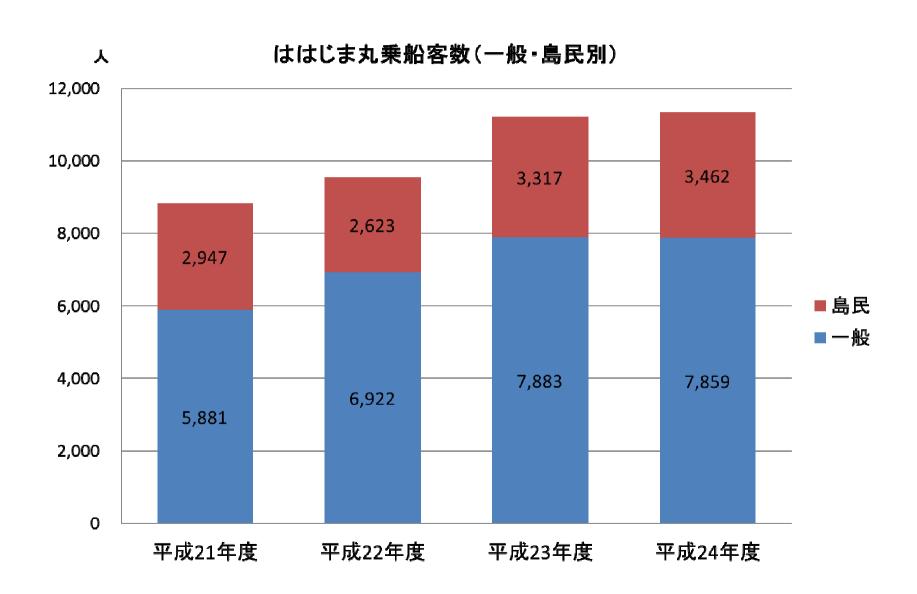
- 新たな外来生物の侵入のリスクは、依然高い。
- 絶滅の恐れのある種の緊急的な保護が重要。
- ・地域の課題にきめ細かく取り組む必要がある。

来島者数(おがさわら丸目的別)

平成24年度のおがさわら丸での来島者数は、世界遺産登録された平成23年度を上回り、過去最高の22,643人(観光目的)を記録しました。研究者・帰島者・仕事での来島者はほぼ横ばいでした。



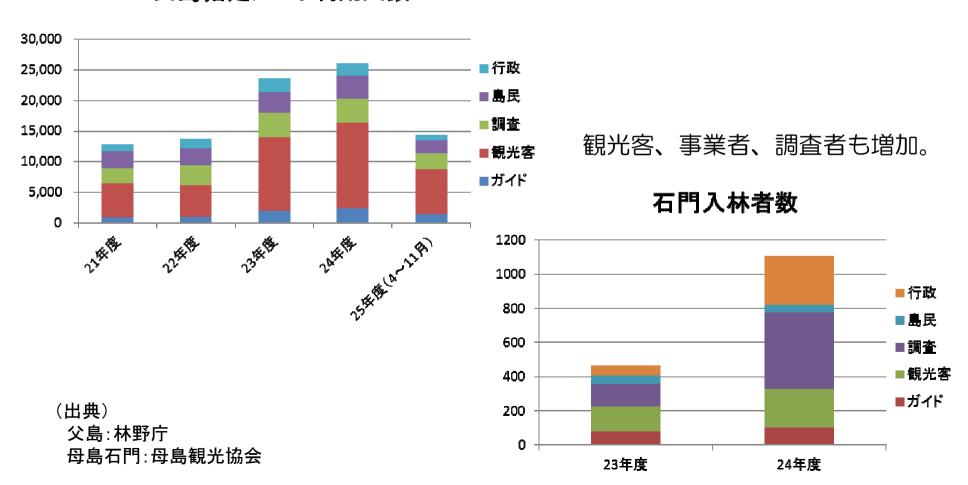
来島者数(ははじま丸)



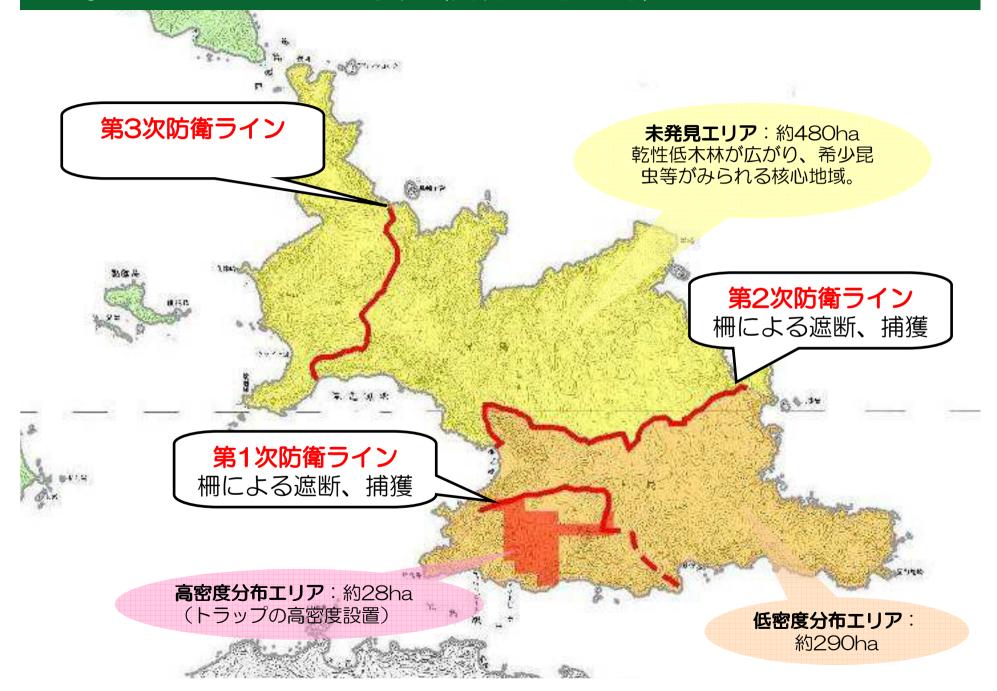
入林者数の推移(父島、石門)

遺産登録後、父島の指定ルートでは、入林者の増加が見られます。また、母島の石門の入林者数も増えています。

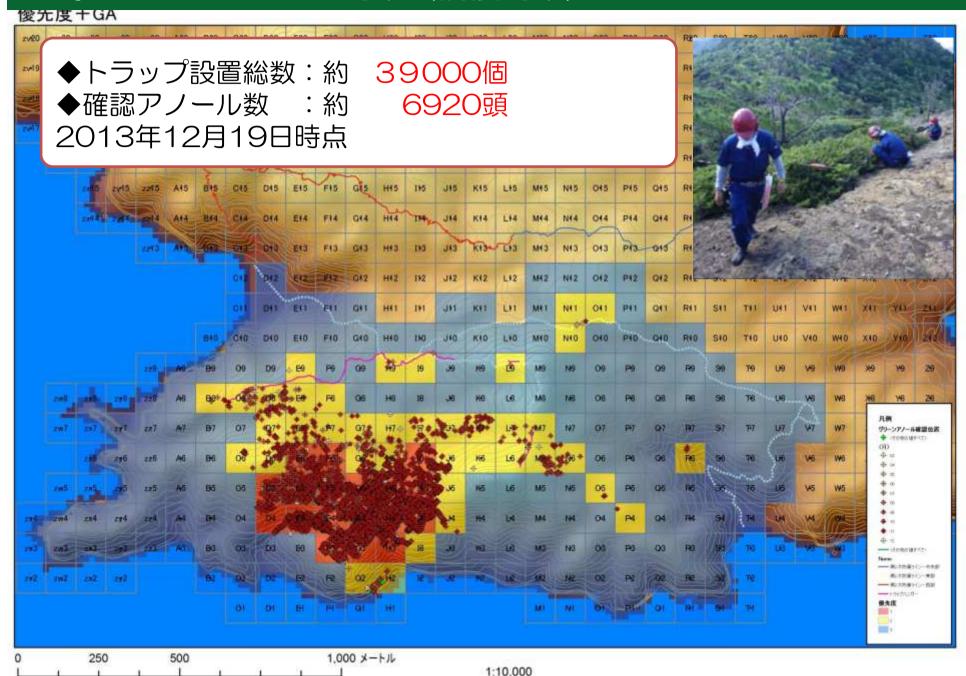
父島指定ルート利用人数



兄島グリーンアノール対策(防除の考え方)

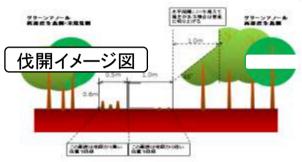


兄島グリーンアノール対策(捕獲対策)



兄島グリーンアノール対策(柵設置のための伐開作業)





•兄島でのグリーンアノール発見(25年3月22日)を受け、 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会や小笠 原諸島世界自然遺産科学委員会の助言のもと、関係行政 機関・団体が協力して捕獲柵の設置等の各種対策を進め ています。

アノールによる昆虫捕食は、小笠原の森林生態系に取り返しのつかない重大な影響を与えるとの共通認識の下に、限られ予算の中での有効な手段であり、緊急かつやむを得ない措置として幅1.5m程度に帯状に森林を伐開・剪定する作業を国有林が担当しております。

その作業実施にあたっては、施工地にある希少種への配慮、伐採・剪定木の防腐処理を万全に行うなど、周辺環境に配慮した対応をしています。



第1次防衛(柵)ライン



防腐処理状況



伐採後の萌芽状況

父島鳥山におけるプラナリア対策、陸産貝類の保全



父島島内でプラナリアが確認されていないのはわずか。このうち、H25年10月に鳥山地域でプラナリアが確認された

環境省において、鳥山での柵の整備の他、父島島内の激減している陸産 貝類を野外から緊急的に回収し、保 全的導入も視野に入れつつ、域外保 全を行っている。

ノヤギの捕獲

> これまでのノヤギ排除実績

(単位:頭)

年度		Н9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	計
智島列島	媒島	136	137	144															417
	嫁島				79	2													81
	聟島				656	265	17	2											940
父島列島	西島						39	2											41
	兄島								78	161	87	61							387
	弟島												197	98	7				302
	父島														385	693	515	334	1,927
		136	137	144	735	267	56	4	78	161	87	61	197	98	392	693	515	334	4,095

平成25年度については11月末まで

> ノヤギ排除後の自然環境の変化

- ・在来樹木の稚樹や草本類が大幅に増加
- ・負の影響として、外来植物(ギンネム、モクマカウ等)の 勢力拡大も確認

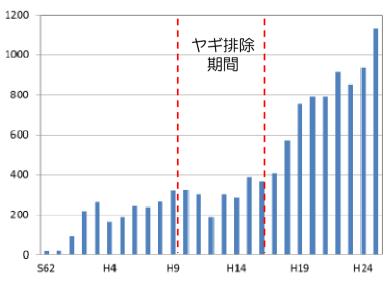
< 父島鳥山周辺での草本類の生育変化> (左 H23.2 ⇒ 右 H24.1)





・海鳥類の繁殖も拡大傾向

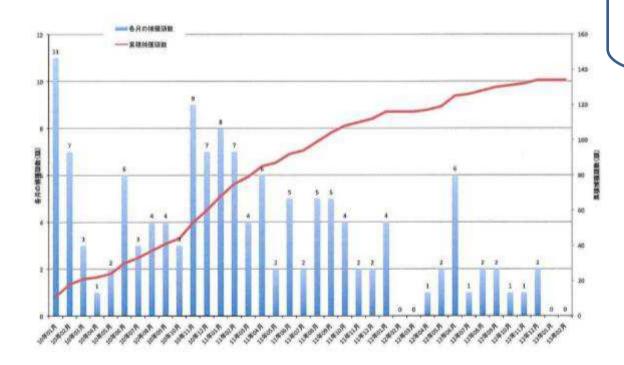
< 智島列島でのクロアシアホウドリ繁殖数の変化>



ネコへの対応の状況

- ◆ 父島の山域でのノネコの捕獲が進み、 山域のネコの確認頭数が減っています。
- ◆ 集落近くでのネコの対応も進んでいます。

都獣医師会、小笠原海運、地域の協力を得て、捕獲ネコは内地搬送、馴化、里親へ譲渡



- ・捕獲して、島外へ搬出
- 侵入防止柵によるハト

重要繁殖地の防除

· 適正飼養

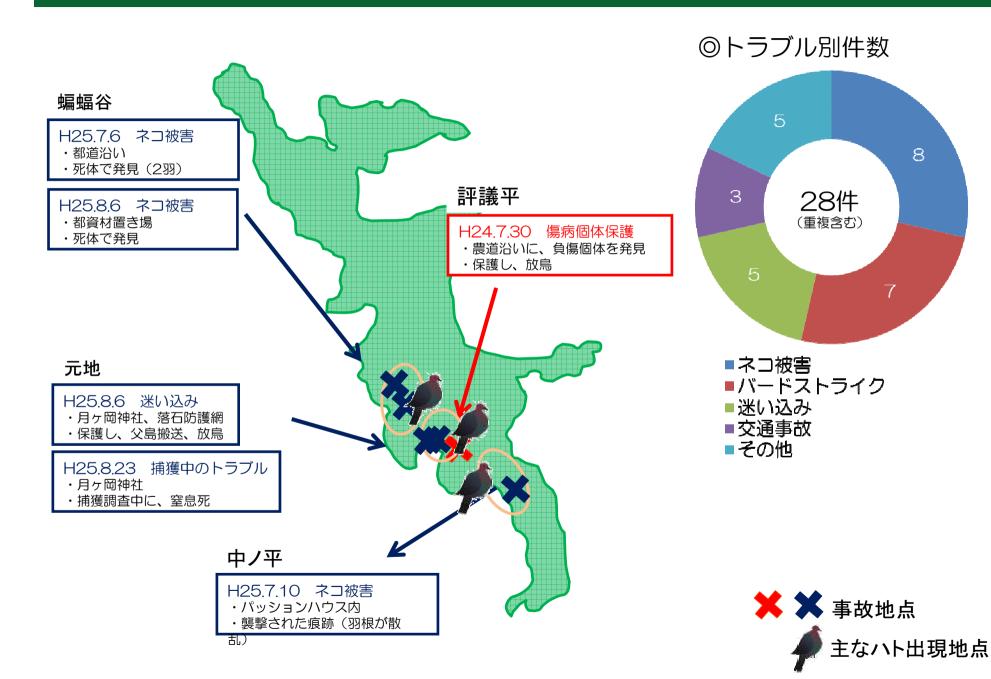


アカカ ジラカラスハ ト状況4 父島トラブル(H24-H25.10.31)

大村地区 清瀬地区 奥村地区 H25622 ネコ被害 H24.8.17 ネコ被害 H25.7.26 傷病個体保護 ·大神山公園(大村海岸) ・集落地内 ・小笠原高校 ・集落内 ・死体で発見 ・保護、上野搬送後、回復 ・保護し、上野搬送後、回復 ・死体で発見 H25.2.22 バードストライク H25.7.4 N - 1 7 1517 H25.9.13 交通事故 H25.6.2 ネコ被害 ・首都大学施設 · 森林総研圃場内 ・集落内 ・集落地内 ・死体で発見 ・保護後、落鳥 ・死体で発見 ・保護、上野搬送後、死亡 H25.7.4 N - 1 7 1 7 1 7 1 7 1 H25.5.30 迷い込み ・小笠原中学校 集落内の村水道施設 ・捕獲し、放鳥 ・死体で発見 H25.7.1 N - 1 31510 旭山地区 ・小笠原中学校 ・死体で発見 H25.3.30 交通事故 ・都道沿い H25.7.11 迷い込み&バードストライク ・死体で発見 ・小笠原中学校に迷い込み ・保護し、放鳥 北袋沢地区 扇浦地区 H24.8.21 打撲 H24720 衰弱個体保護 ・扇浦海岸沿いの宅地内 • 都道 小曲地区 ・衰弱個体を保護、治療2日後に落鳥 ・死体で発見 H25.8.16 ネコ被害 H24.8.31 交通事故 ・住宅地内 ・扇浦海岸付近の道路上 ・保護、上野搬送後、回復 ・交通事故により死亡 H25.9.1 迷い込み H25.5.9 迷い込み ・農園鶏舎内 ・宅地内に迷い込み、衰弱 ・保護し、放鳥 ・保護も、治療中に落鳥 🗙 🗶 事故地点 H25.8.15 N - F 31517 主なハト出現地点 ・都道看板に衝突

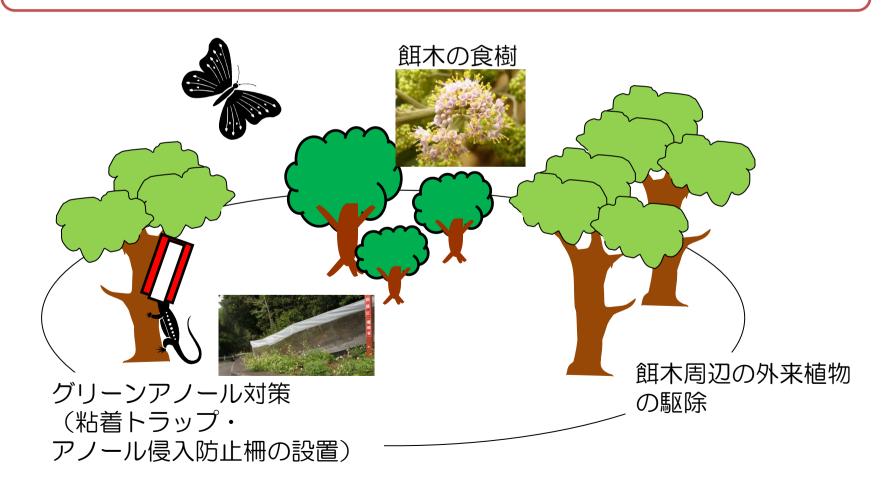
・死体で発見

アカカ シラカラスハ ト状況⑤ 母島トラブル(H24-H25.10.31)



希少昆虫類の保全対策(オガサワラシジミ)

◆西浦地域におけるオガサワラシジミの保全計画 関係行政機関が、地元のシジミの会に協力を得ながら役割分担し、西 浦地域におけるシジミにとって良い生育環境の確保に努めています



希少昆虫類の保全対策(兄島オガサワラハンミョウ)

平成17~20年に生息が確認されていた**21調査区**中、平成23年には

11調査区において消滅が確認されました。絶滅回避のため、生育環境の改善、域外保全などの対策を連携して進めています。

提

林野庁

◆生育環境保全の取組

オガサワラハンミョウの好む裸地環境が、外来植物のモクマオウやリュ

ウキュウマツの 侵入により悪い しています。 か駆除、落葉の 物駆など、 な 環境の保全を っています。



リターに覆われつつある巣穴

環 境 省

◆生息地調査

保全すべき重要 生息地の抽出

◆域外保全



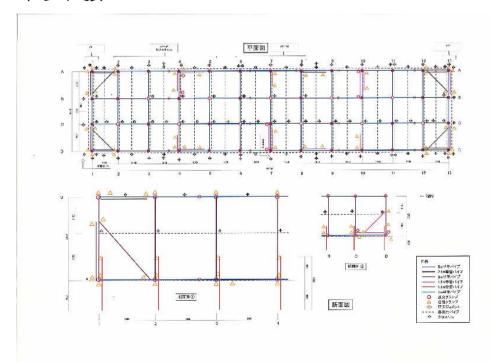
種の保存、さらには飼育技術を確立 し、将来的には飼育個体を兄島に帰 す(再導入)ことを目標に、内地の 昆虫館で、飼育試験を行っています。

オガサワラオオコウモリ農作物被害対策事業(1)(小笠原村)

本事業は、オガサワラオオコウモリが、農作物被害防除用の防鳥ネット等に絡まることで発生する滅失等の事故を防止するため、平成20年度より文化庁及び東京都の補助を受け、小笠原村が実施している事業である。

平成24年度においては、前年度までの実証試験によってオオコウモリに対する安全性、食害防止効果及び耐久性が確認された防除施設3箇所、防除器具2件5箇所の資材貸与を実施した。 防除施設の概要は次のとおりである。

- 1. 施設設置場所 父島字二子、小曲、吹上谷 2. 施設内栽培種 菊池レモン、マンゴー
- 3. 施設規模 面積:111.5㎡、6.25㎡、105㎡、高さ:2.5m、構造:単管パイプ/樹脂製 ネット張



施設外観



オガサワラオオコウモリ農作物被害対策事業②(小笠原村)

平成25年度については、前年度事業同様、オオコウモリに対する安全性、農作物被害防除効果及び耐久性が確認された防除施設の設置を希望する者(家庭菜園を含む農地等の耕作者)に対して、当該施設の設置、防除器具の設置に要する資材を無償で貸与する事業を実施する。

また、施設設置者の負担軽減を図るため、施設の設置について技術的な指導、助言を行い、防除施設の普及を促進させる。

農作物被害実態及び防除策設置希望調査、農作物被害防除対策保護管理マニュアル作成を実施し、事業の推進を図る。

個別防除(バナナ)





外来生物対策普及啓発事業(各機関)

1. 村民ボランティアによる外来種駆除作業(小笠原村)

平成13年度より主に南島での外来種駆除作業を村民ボランティア参加のもと行い、 外来種の駆除作業を通して、小笠原諸島の特異な自然環境を劣化させず後世に残すため、 保存・保護していくという意識啓発を行うと共に、参加する村民ボランティアの自然学 習の場とする。

実施年度	実施日	参加人数	実施場所
平成24年度	H24.7.14	30名	南島
平成25年度	H25.5.6	28名	兄島

2ヵ年の実績

2. 兄島視察会の開催(小笠原村)

実施日	参加人数	対象者
H25.10.31	20名	陸域ガイド
H26.2.1	28名	一般村民

- 3. 環境教育に関する取組(各機関)
- 学校教育との連携
- ・ 社会人を対象とした取組
- ・ 島外からの学生を対象とした取組



駆除作業の様子



学生を対象としたエコツーリズム (環境省と母島観光協会)

写真母島観光協会提供